

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-107396

(43)Date of publication of application : 22.04.1997

(51)Int.Cl. H04M 1/274
H04Q 7/38

(21)Application number : 07-302254 (71)Applicant : CASIO COMPUT CO LTD

(22)Date of filing : 27.10.1995 (72)Inventor : NIIMI TOMOHIRO

(30)Priority

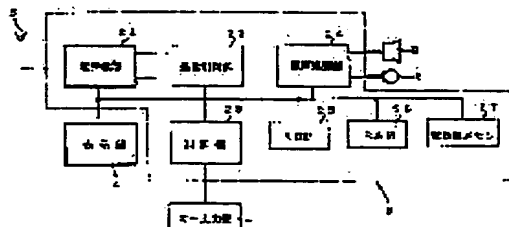
Priority number : 07185059 Priority date : 29.06.1995 Priority country : JP

(54) PORTABLE COMMUNICATION EQUIPMENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To quickly retrieve object terminal equipment data even when terminal equipment data of different classification are registered in mixture.

SOLUTION: A telephone directory memory 27 stores private use terminal data and business use terminal data in mixture. A control section 23 a primate mode to be accessed to a base station in a house or a business mode to be accessed to a base station in an enterprise in response to setup of a control channel, and retrieves quickly the terminal data of a classification corresponding to the set mode from the telephone directory memory 27 and gives the data to a display section 4, on which the data are displayed, and selects terminal data according to a selection command. When the control section 23 receives a transmission command, the control section 23 sends number of the selected terminal data to a base station.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 22.10.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3658658

[Date of registration] 25.03.2005

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-107396

(43) 公開日 平成9年(1997)4月22日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/274			H 0 4 M 1/274	
H 0 4 Q 7/38			H 0 4 B 7/26	1 0 9 T

審査請求 未請求 請求項の数 8 F D (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願平7-302254

(22) 出願日 平成7年(1995)10月27日

(31) 優先権主張番号 特願平7-185059

(32) 優先日 平7(1995)6月29日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

(72) 発明者 新美 知宏

東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ

計算機株式会社羽村技術センター内

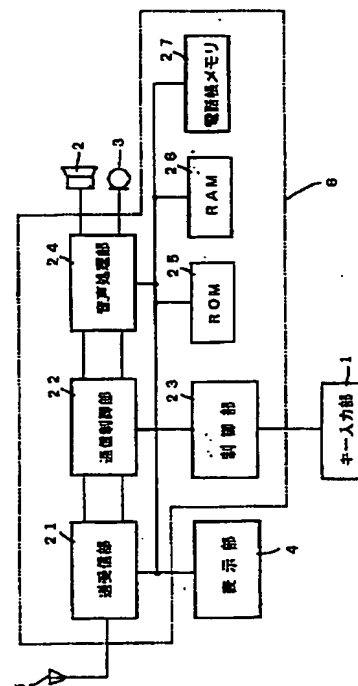
(74) 代理人 弁理士 杉村 次郎

(54) 【発明の名称】 携帯通信装置

(57) 【要約】

【課題】 異なる分類の端末データが混在して登録されている場合でも、目標とする端末データを迅速に検索する。

【解決手段】 電話帳メモリ27は、プライベート用の端末データ及びビジネス用の端末データを混在して記憶する。制御部23は、制御チャネルの確立に応じて家庭内の基地局にアクセスするプライベートモード又は事業所内の基地局にアクセスするビジネスモードを設定するとともに、キー入力部1から端末データの検索指令を受けたときは、設定しているモードに対応する分類の端末データを電話帳メモリ27から迅速に検索して表示部4に供給して表示させ、選択指令に応じてひとつの端末データを選択する。発信指令を受けたときには、その選択した端末データの番号を基地局に対して発信する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 異なる分類の中の 1 つの分類と共にこの分類に対応する相手端末の端末データを複数記憶する記憶手段と、

異なる分類の中の 1 つを設定する設定手段と、

この設定手段により設定された分類に基づいて前記記憶手段の端末データを検索する検索手段と、

この検索手段により検索された所定分類の端末データを出力する出力手段とを備えたことを特徴とする携帯通信装置。

【請求項 2】 前記携帯通信装置は、基地局を介して無線通信が可能であり、前記設定手段は、該基地局から送られてくる基地局識別符号に基づいて設定することを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 3】 前記分類は、公用と私用であり、前記基地局識別符号は、少なくとも事業所及び家庭であり、前記基地局から事業所の基地局識別符号を受信すると、前記設定手段で公用を設定し、該基地局から家庭の基地局識別符号を受信すると、該設定手段で私用を設定することを特徴とする請求項 2 記載の携帯通信装置。

【請求項 4】 前記出力手段は、端末データを前記基地局に対して発信する発信手段であることを特徴とする請求項 2 記載の携帯通信装置。

【請求項 5】 前記出力手段により出力された端末データを表示する表示手段を有することを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 6】 前記記憶手段は、所定分類の端末データを所定分類毎に記憶する複数のエリアに分割されていることを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 7】 前記携帯通信装置は、前回着信、又は前回発信した端末データ又は端末データに対応する分類を記憶し、

前記設定手段は、この記憶された端末データ、又はこの端末データに対応する分類に従って分類を設定することを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 8】 前記記憶手段は、エリア毎の端末データを記憶する外部記憶媒体で構成され、前記携帯通信装置は、その本体に前記外部記憶媒体を挿入するためのスロットを備えていることを特徴とする請求項 6 記載の携帯通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】 この発明は、端末データを登録する携帯通信装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来より、携帯通信装置に電話帳メモリを備え、相手端末の電話番号、名称、住所等からなる端末データを登録（記憶）するとともに、登録した端末データを検索して表示部に一覧表示させるものがある。ユーザはこの一覧表示された端末データを選択することに

より相手端末にオートダイヤルしたり、必要な情報を確認することができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、最近実用化が進んでいる PHS（パーソナル・ハンディホン・システム）端末は、家庭内でプライベート用（私用）として使用したり、家庭から持ち出して事業所内の構内携帯電話機としてビジネス用（公用）に使用することができる。したがって、登録する端末データもプライベート用のものとビジネス用のものとが混在している。しかしながら従来の技術では、プライベート用の端末データもビジネス用の端末データも無作為に登録されていた。このため、例えばプライベート用の特定の相手端末の電話番号を検索する場合でも、ビジネス用の端末データも同時に表示され、しかも一度に表示できる端末データの数も限られているため、目標の端末データを検索するのに時間がかかりすぎるという問題があった。この発明の課題は、異なる分類の端末データが混在して登録されている場合でも、目標とする端末データを迅速に検索できるようにすることである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 この発明は、異なる分類の中の 1 つの分類と共にこの分類に対応する相手端末の端末データを複数記憶する記憶手段と、異なる分類の中の 1 つを設定する設定手段と、この設定手段により設定された分類に基づいて前記記憶手段の端末データを検索する検索手段と、この検索手段により検索された所定分類の端末データを出力する出力手段とを備えた構成になっている。また、このとき、設定手段は、基地局から送られてくる基地局識別符号に基づいて設定するようにしてもよい。さらに、このとき、記憶手段は、所定分類の端末データを所定分類毎に記憶する複数のエリアに分割して記憶するようにしてもよい。この場合において、記憶手段は、エリア毎の端末データを記憶する外部記憶媒体で構成され、装置本体にその外部記憶媒体を挿入するスロットを備えるようにしてもよい。さらにまた、前回着信、又は前回発信した端末データ又は端末データに対応する分類を記憶し、設定手段は、この記憶された端末データ、又はこの端末データに対応する分類に従って分類を設定するようにしてもよい。

【0005】 上記構成によりこの発明においては、登録した端末データの検索の際、設定している分類の端末データだけを記憶手段から読み出して表示させ、他の分類の端末データは表示させないので、異なる分類の端末データが混在して登録されている場合でも、目標とする端末データを迅速に検索して発信することができる。また、基地局との間で制御チャネルを確立したときにその基地局から送られてくる基地局識別符号に基づいて分類を設定することにより、家庭内に携帯通信装置があるときにはプライベート用の分類の端末データだけを検索す

ことができ、事業所内に携帯通信装置があるときにはビジネス用の分類の端末データだけを検索して発信することができる。さらに、所定分類毎に端末データを複数のエリア毎に記憶するようにしたので、複数のエリアを切り替えることにより所定分類の端末データを迅速に検索して発信することができる。この場合において、記憶手段を装置本体に挿脱可能に挿入する外部記憶手段で構成することにより、多数の端末データを登録することができ、用途に応じて外部記憶手段を交換することができる。さらにまた、前回着信又は発信した端末データの分類を記憶して、端末データの検索のときには、前回着信又は発信した端末データの分類に従ってモードを設定することにより、制御チャネルの確立を行う前でも、目標とする端末データを迅速に検索できる。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、図1～図9を参照してこの発明の第1及び第2実施形態をPHSの携帯通信装置を例に採り説明する。まず、図1～図5を参照して第1実施形態を説明する。PHSにおいては、その変復調方式は $\pi/4$ シフトQPSKであり、アクセス方式は4チャネル多重のTDMA/TDD (Time Division Multiple Access/Time Division Duplex) である。TDMAは、システム帯域幅の全体を使って1無線キャリアで広帯域の通信を行い、5msの時間周期のフレームを8等分した $625\mu s$ を1スロットとして、4チャネル分の送受信スロットを設けている。また、PHSの通信制御方式では、音声信号を担う通話チャネルとは別に、制御信号を担う制御チャネルを設けている。通常、基地局から制御信号が周期的に送信されている(LCCHスーパーフレーム)。各端末は、この制御信号を受信することにより基地局との接続が可能となる。そして、発着信の時は、この制御チャネルの上りを使用して基地局に対して通話チャネルの割当てを要求し、この通話チャネルが割当てられると当該通話チャネルを使用して所定手順を実行した後に無線回線を接続して通話を開始する。

【0007】PHS端末には、図1に示すように、キー入力部1、スピーカ2、マイク3、表示部4及びアンテナ5が設けられている。キー入力部1には、ダイヤルボタン11の他、発信するときや着信するとき使用する通話ボタン12、通話を終了するとき使用する切ボタン13、トランシーバモードではトランシーバの発呼若しくは着呼に使用し、電話モードでは内線やドアホンに使用するトランシーバ/内線ボタン14、通話中の保留を指示する保留ボタン15、電話帳モードを指示する電話帳ボタン16a、データの登録をする登録ボタン16b、データの削除をする削除ボタン16c、音量調整及び表示データのスクロールを行うスクロールボタン17がある。その他、図には示していないが、電源をオン・オフする電源スイッチ等がある。

【0008】図2は、PHS端末のシステムのブロック

図であり、キー入力部1等及びこれらと接続する回路部6の内部構成を示している。送受信部21は、送信/受信を振り分けるアンテナスイッチ、PLLシンセサイザを有する周波数変換部、通信回線と接続するための変復調をするモデム等(いずれも図示せず)で構成されている。周波数変換部の受信側では、アンテナスイッチを介してアンテナ5から入力された1.9GHz帯のRF信号をPLLシンセサイザから出力される所定周波数の局部発振信号と混合して、1MHz付近のIF信号に周波数変換する。周波数変換部の送信側では、モデムから入力された $\pi/4$ シフトQPSKの変調波をPLLシンセサイザから出力する局部発振信号と混合して1.9GHz帯のRF信号に周波数変換し、アンテナスイッチを介してアンテナ5に供給する。モデムの受信側では、周波数変換部からのIF信号を復調してIQデータに分離し、受信データ列として通信制御部22へ転送する。モデムの送信側では、通信制御部22から転送されてきたデータからIQデータを作成して、 $\pi/4$ シフトQPSKの変調をして周波数変換部に出力する。

【0009】通信制御部22は、フレーム同期及びスロットのデータフォーマット処理をする。通信制御部22の受信側では、送受信部21のモデムから転送されてくる受信データ列から所定タイミングで1スロット分のデータを取り出し、このデータの中からユニークワードと称する同期信号を抽出してフレーム同期をとる。また、制御信号及び音声信号のスクランブルを解除した後、制御信号は制御部23に転送し、音声信号は音声処理部24に転送する。通信制御部22の送信側では、音声処理部24から転送されてくる音声信号に制御信号を付加し、スクランブルをかけた後にユニークワードを付加して1スロット分の送信データを作成する。そして、この送信データを所定タイミングでフレーム内の所定位置のスロットに挿入して送受信部22のモデムに転送する。

【0010】音声処理部24は、スピーチコーデック及びPCMコーデック(いずれも図示せず)で構成されている。スピーチコーデックは、デジタルデータの圧縮・伸張処理を行うもので、その受信側では、通信制御部22から転送されてきた32kbps(4bit×8kHz)のADPCM音声信号を、64kbps(8bit×8kHz)のPCM音声信号に復合化して伸張し、PCMコーデックに出力する。一方、その送信側では、PCMコーデックから送られてきたPCM音声信号をADPCM音声信号に符号化して圧縮し、通信制御部22に転送する。PCMコーデックは、アナログ/デジタル変換処理を行うもので、その受信側では、スピーチコーデックから送られてくるPCM音声信号をD/A変換してそのアナログ音声信号をスピーカ2に出力する。一方、その送信側では、マイク3から入力されたアナログ音声信号をA/D変換してそのPCM音声信号をスピーチコーデックに出力する。

【0011】ROM25には、制御部23によって実行される動作プログラムやイニシャライズ処理に必要なデータ等が格納されている。RAM26は、制御部23が処理するデータ等を一時的に記憶する。電話帳メモリ（記憶手段）27は相手端末の端末データを記憶する。制御部（制御手段）23は、動作プログラムに基づいてこの装置全体を制御し、通信制御部22から転送される制御チャンネルの制御信号を分析してその基地局が家庭内の基地局であるか又は事業所内の基地局であるかを判別する。また、キー入力部1からの入力により発呼・着呼処理、端末データ検索処理を行うとともに、種々のデータやメッセージ等を表示部4に供給して表示させる。

【0012】次に、この第1実施形態における端末データの登録及び登録した端末データの検索、発信の動作について説明する。電源がオンされると、制御チャンネルをサーチして基地局から制御信号を引込み、制御チャンネル確立の処理を行う。図3に制御チャンネル確立のフローチャートを示す。事業所内の基地局との間で事業所制御チャンネルが確立したか否かを判定し（ステップS11）、確立したと判断した場合にはビジネスモードに設定する（ステップS12）。事業所制御チャンネルが確立していないと判断した場合には、家庭内の基地局との間で家庭制御チャンネルが確立したか否かを判定し（ステップS13）、確立したと判断した場合にはプライベートモードに設定する（ステップS14）。家庭制御チャンネルが確立していないと判断した場合には、現在設定しているモードを解除する（ステップS15）。

【0013】次に、この第1実施形態における端末データの登録方法について説明する。図4に電話帳メモリ27の構造を示す。この図に示すように、登録する端末データとしては、電話番号31、名前（加入者名）32、住所33等がある。さらに、端末データの登録とともに端末データの分類を示す識別データ34も登録する。端末データ登録モードにおいて、この端末データがプライベートに関するデータである場合には、「P」の識別データを端末データとともに登録する。一方、端末データがビジネスに関するデータである場合には、「B」の識別データを端末データとともに登録する。すなわち、識別データPに対応する端末データはプライベート用データであり、識別データBに対応する端末データはビジネス用データである。

【0014】次に、登録した端末データを検索して発信する場合のデータ読み込みについて説明する。制御部23は、キー入力部1の電話帳ボタン16aから検索指令を受けたときは、電話帳メモリ27からデータ読み込みを行う。図5に検索のデータ読み込みのフローチャートを示す。まず、現在設定しているモードを判定する（ステップS21）。プライベートモードであると判断した場合には、電話帳メモリ27の識別データPに対応するプライベート用データを検索する（ステップS22）。

ビジネスモードであると判断した場合には、識別データBに対応するビジネス用データを検索する（ステップS23）。モードが設定されていない場合には全データを検索する（ステップS24）。そして、検索した端末データを表示部4に供給して表示させる（ステップS25）。検索する端末データ数が最大表示データ数よりも多い場合には、キー入力部1のスクロールボタン17からのスクロール指令に応じて又は自動的に所定数の端末データを順次表示部4に供給する。さらに、この表示部4に表示された端末データの中から所定端末データを選択して（ステップS26）、通話ボタン12の押下（発信指令）を検出したか否かを判定し（ステップS27）、押下を検出した場合にはこの端末データの番号を発信する（ステップS28）。

【0015】このように上記第1実施形態によれば、登録した端末データの検索、発信の際、設定している分類の端末データだけを電話帳メモリ27から読み出して表示させ、他の分類の端末データは表示させないので、異なる分類の端末データが混在して登録されている場合でも、目標とする端末データを迅速に検索することができる。

【0016】なお、上記第1実施形態では、端末データを電話帳メモリ27に登録する際、同一のエリアに識別データ34とともに登録するようにしたが、第1実施形態の変形例として、図6に示すようにプライベート用データを登録するエリア41とビジネス用データを登録するエリア42とを別々に設けるようにしてもよい。この場合には、識別データ34を端末データとともに登録する必要がない。検索指令を受けたときは、制御部23は現在設定しているモードに対応するエリアの端末データを検索する。このとき、次の第2実施形態のように、エリア41を端末内の電話帳メモリ27に設け、エリア42を端末に対して着脱可能なメモリに設けるようにしてもよい。

【0017】以下、この発明の第2実施形態を図6～図9を参照して説明する。PHS端末の本体には、図6に示すように、スロット18が設けられており、外部記憶媒体であるメモリカード19を挿脱可能に装着できるようになっている。そして、ビジネス用データをこのメモリカード19に登録する。他の構成については第1実施形態と同じであるので説明は省略する。メモリカード19をPHS端末のスロット18に装着した場合、図7に示すように、メモリカード19はバスを介して制御部23に接続される。また、RAM26には、リダイヤルメモリエリア266が設けられており、前回着信又は発信した端末データ及びその端末データが属する分類を記憶している。他の構成については第1実施形態と同じであるので説明は省略する。メモリカード19には、図8

(A)に示すように、ビジネス用データである名前、勤務先電話番号等のデータが登録されている。一方、電話

帳メモリ27には第1実施形態と同様に、図8(B)に示すようなプライベート用データが登録されている。

【0018】次に、この第2実施形態における端末データの検索、発信の際のデータ読み込みについて、図9のフローチャートを参照して説明する。制御部23は、キー入力部1の電話帳ボタン16aから検索指令を受けたときは、データ読み込みのルーチン(ステップS31)に移行して、RAM26のリダイヤルメモリエリア266の端末データを読み込み(ステップS32)、前回着信又は発信した端末データが有るか否かを判定する(ステップS33)。端末データが有ると判定したときは、その端末データとともに記憶されている分類を参照して、その端末データの分類は電話帳メモリ27内のものであるか、又はメモリカード19内のものであるかを判定する(ステップS34)。その端末データがメモリカード19内のものであると判定したときには、メモリカード19がスロット18に装着されているか否かを判定し(ステップS35)、装着されていると判定したときにはリダイヤルメモリエリア266に記憶されている端末データの分類に対応するメモリカード19であるか否かを判定する(ステップS36)。対応すると判定したときにはビジネスモードに設定し、メモリカード19にアクセスしてビジネス用データを検索する(ステップS37)。一方、ステップS34においてその端末データの分類が電話帳メモリ27内のものであると判定したとき、及び、ステップS35においてスロット18にメモリカード19が装着されていないと判定したときにはプライベートモードに設定し、電話帳メモリ27にアクセスしてプライベート用データを検索する(ステップS38)。また、ステップS33において、リダイヤルメモリエリア266には前回着信又は発信した端末データが記憶されていないと判定したとき、及び、ステップS36において、スロット18に装着されているメモリカード19がリダイヤルメモリエリア266に記憶されている端末データの分類に対応しないものと判定したときには、モード設定を解除して全てのデータを検索する(ステップS39)。

【0019】次に、検索した端末データを表示部4に供給して表示させ(ステップS40)、検索する端末データが最大表示データ数よりも多い場合には、スクロール指令に応じて又は自動的に所定数の端末データを順次表示部4に供給する。この後、選択指令に応じて表示された端末データのひとつを選択し(ステップS41)、発信指令を受けたか否かを判定する(ステップS42)。発信指令を受けたと判定した場合には、現在の設定モードと基地局との間に確立している制御チャンネルにおけるモードとが一致しているか否かを判定し(ステップS43)、一致していると判定した場合には、その基地局に対して選択した端末データの番号を発信する(ステップS44)。一方、ステップS43において設定モードと

制御チャンネルにおけるモードとが一致していないと判定した場合には、その制御チャンネルのモードに設定し(ステップS45)、その設定したモードの端末データを検索し(ステップS46)、ステップS40の表示処理に移行する。その後はステップS41以降の各処理を実行する。

【0020】このように上記第2実施形態によれば、前回着信又は発信した端末データをリダイヤルメモリエリア266から読み込んで、その端末データに対応する分類に従ってモードを設定する。そして、その設定モードの端末データを検索し、任意の端末データが選択されて発信指令を受けたときには、その選択した端末データの番号を基地局に対して発信する。したがって、制御チャンネルの確立を行うことなく、目標とする端末データを迅速に検索できる。また、PHS端末の本体に挿脱可能に挿入するメモリカード19にビジネス用データを登録することにより、多数の端末データを登録することができる。

【0021】なお、上記第2実施形態では、メモリカード19をビジネス用データ専用のメモリとしたが、プライベート用データが多い場合には、メモリカード19をプライベート用データの専用メモリとしたり、双方を混在させてメモリカード19に登録することもある。特に、ビジネス用データは、得意先、発注先、企業内等のように複数のグループごとに多くの端末データがある場合が多い。このような場合には、メモリカード19に複数のグループのビジネス用データを混在して登録することになる。そこで、各グループごとに分類して登録し、前回着信又は発信した端末データをリダイヤルメモリエリア266から読み込んで、その端末データに対応する分類を検索することにより、目標とする端末データをより一層迅速に検索できる。また、複数のメモリカード19をビジネス用とプライベート用とに分けて登録すれば、用途に応じてメモリカード19を交換することができる。

【0022】なお、上記第1及び第2実施形態では、基地局との間で制御チャンネルを確立したときに、その基地局に応じてプライベートモード又はビジネスモードを設定するようにしたが、キー入力部1からのモード指定に応じてモードを設定するようにしてもよい。この場合には、事業所内においてもプライベート用データを検索することができ、家庭内においてもビジネス用データを検索することができる。

【0023】また、登録する端末データの分類はプライベート用又はビジネス用に限らず、2以上の分類を登録するようにしてもよい。例えば、ビジネス用データを外線相手端末のデータ及び内線相手端末のデータの分類に分けることもできる。さらに、異なる事業所にPHSを移動した場合には、内線端末データの検索の際には、その事業所における内線相手端末のデータを検索するよう

にしてもよい。

【0024】また、上記第1及び第2実施形態では、携帯通信装置としてPHS端末を例に採ったが、この発明が適用できる対象としてはPHS端末に限らず、複数の異なる分類毎の制御信号を基地局から受け取り、この制御信号に基づいて異なる分類の相手端末の端末データを検索する携帯通信装置全般に対して適用することができる。

【0025】

【発明の効果】この発明によれば、登録した端末データの検索の際、設定している分類の端末データだけを記憶手段から読み出して表示させ、他の分類の端末データは表示させないので、異なる分類の端末データが混在して登録されている場合でも、目標とする端末データを迅速に検索することができる。また、基地局との間で制御チャネルを確立したときにその基地局から送られてくる基地局識別符号に基づいて分類を設定することにより、家庭内に携帯通信装置があるときにはプライベート用の分類の端末データだけを検索することができ、事業所内に携帯通信装置があるときにはビジネス用の分類の端末データだけを検索することができる。さらに、所定分類毎に端末データを複数のエリア毎に記憶するようにしたので、複数のエリアを切り替えることにより所定分類の端末データを迅速に検索することができる。この場合において、記憶手段を装置本体に挿脱可能に挿入する外部記憶手段で構成することにより、多数の端末データを登録することができ、用途に応じて外部記憶手段を交換することができる。さらにまた、前回着信又は発信した端末データの分類を記憶する構成とし、端末データの検索のときには、前回着信又は発信した端末データの分類に従ってモードを設定する。したがって、制御チャネルの確立を行うことなく、目標とする端末データを迅速に検索

できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の第1実施形態におけるPHS端末の操作面を示す平面図。

【図2】第1実施形態におけるPHS端末のシステムのブロック図。

【図3】第1実施形態における制御部の制御チャネル確立のフローチャート。

【図4】第1実施形態における電話帳メモリの構造を示す図。

【図5】第1実施形態における制御部のデータ読み込みのフローチャート。

【図6】第1実施形態の変形例における電話帳メモリの構造を示す図。

【図7】この発明の第2実施形態におけるPHS端末の操作面を示す平面図。

【図8】第2実施形態におけるPHS端末のシステムのブロック図。

【図9】第2実施形態における制御部のデータ読み込みのフローチャート。

【符号の説明】

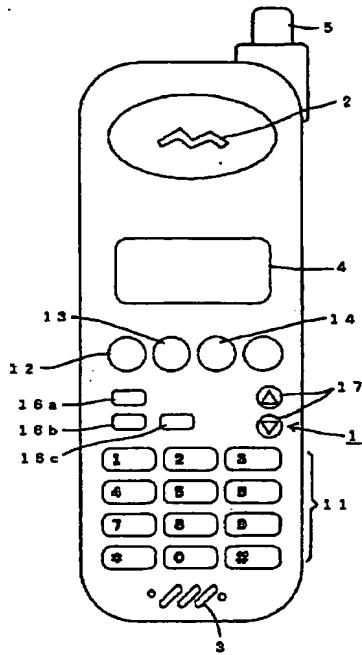
- 1 キー入力部
- 2 スピーカ
- 3 マイク
- 4 表示部
- 5 アンテナ
- 6 回路部
- 18 スロット
- 19 メモリカード
- 23 制御部
- 27 電話帳メモリ
- 266 リダイヤルメモリエリア

【図4】

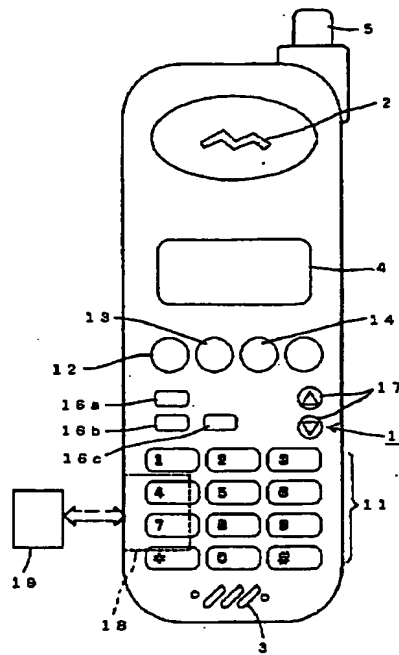
34	32	31	33
S/P	名 前	電 話 番 号	住 所
B	山田 太郎	0425-79-1234	
B	加藤 三郎	0425-79-4567	
P	田中 五郎	0425-79-7890	
B	鈴木 二郎	0425-79-3456	

27

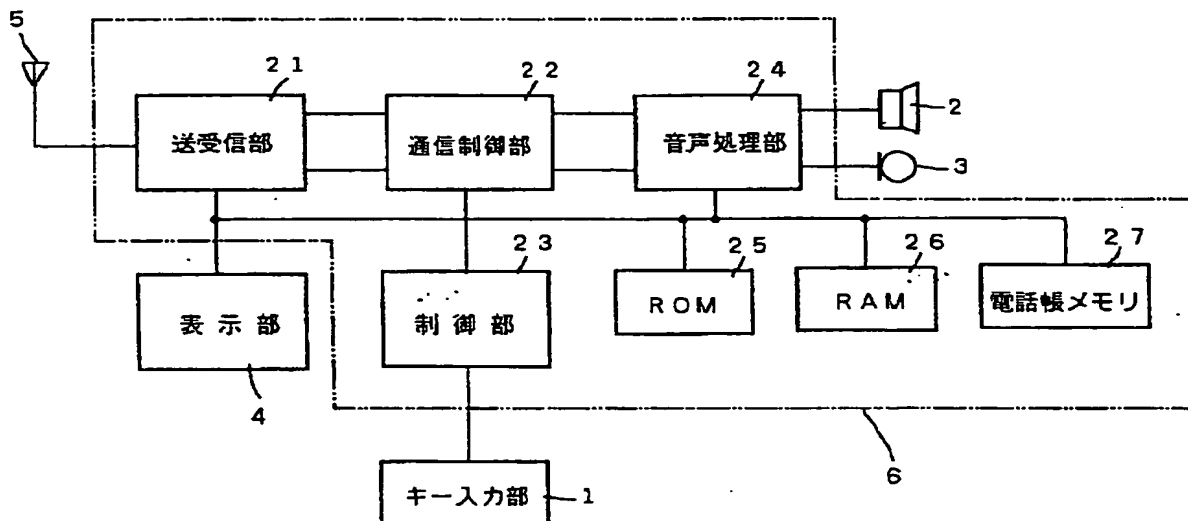
【図1】



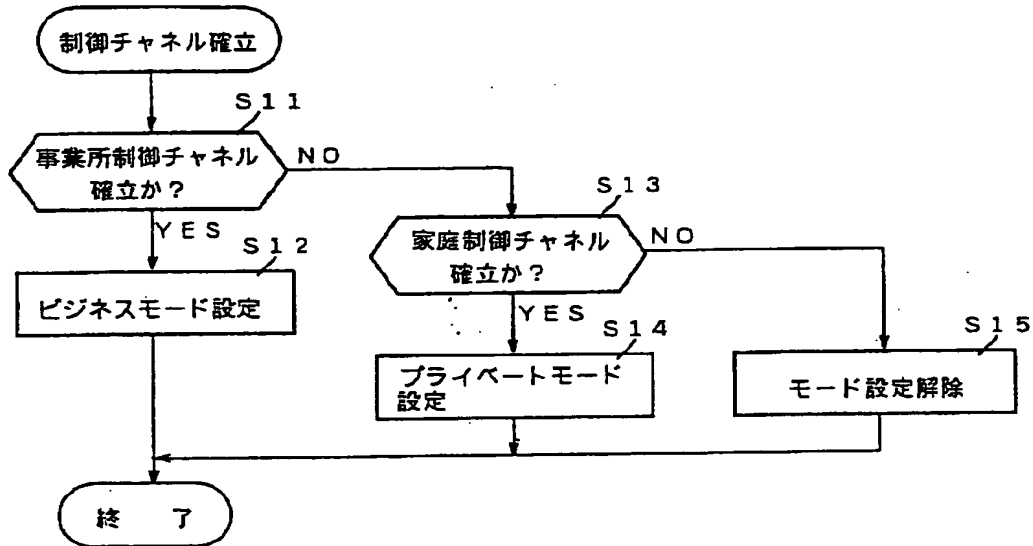
【図6】



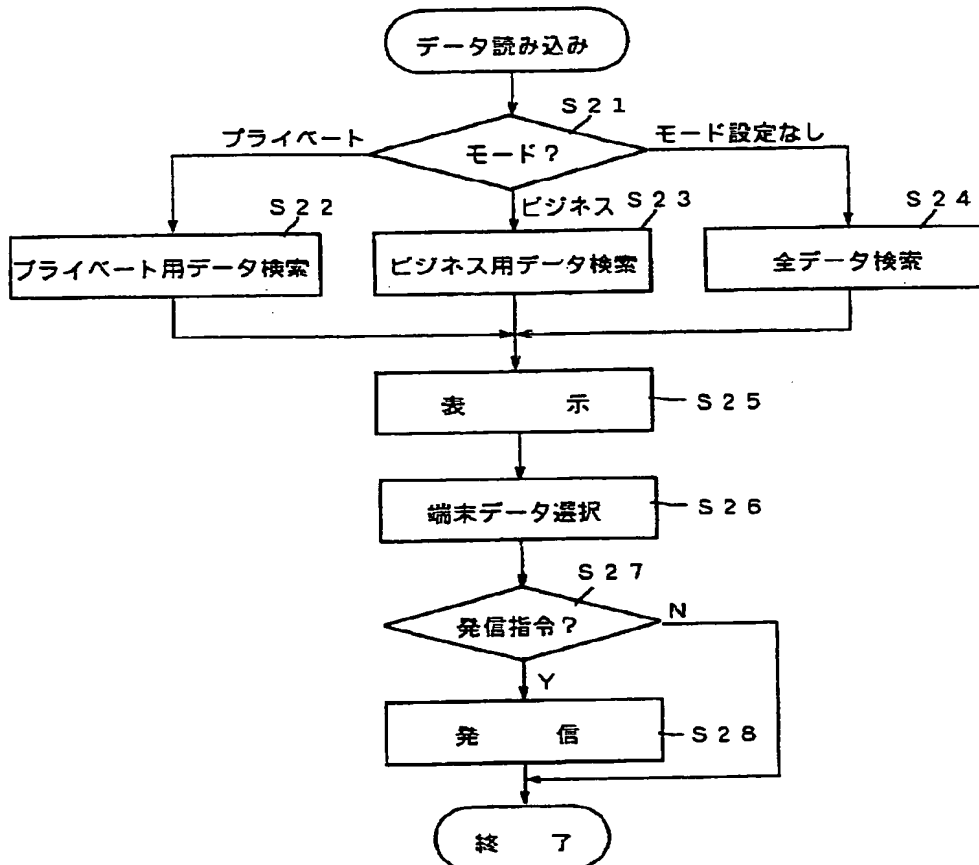
【図2】



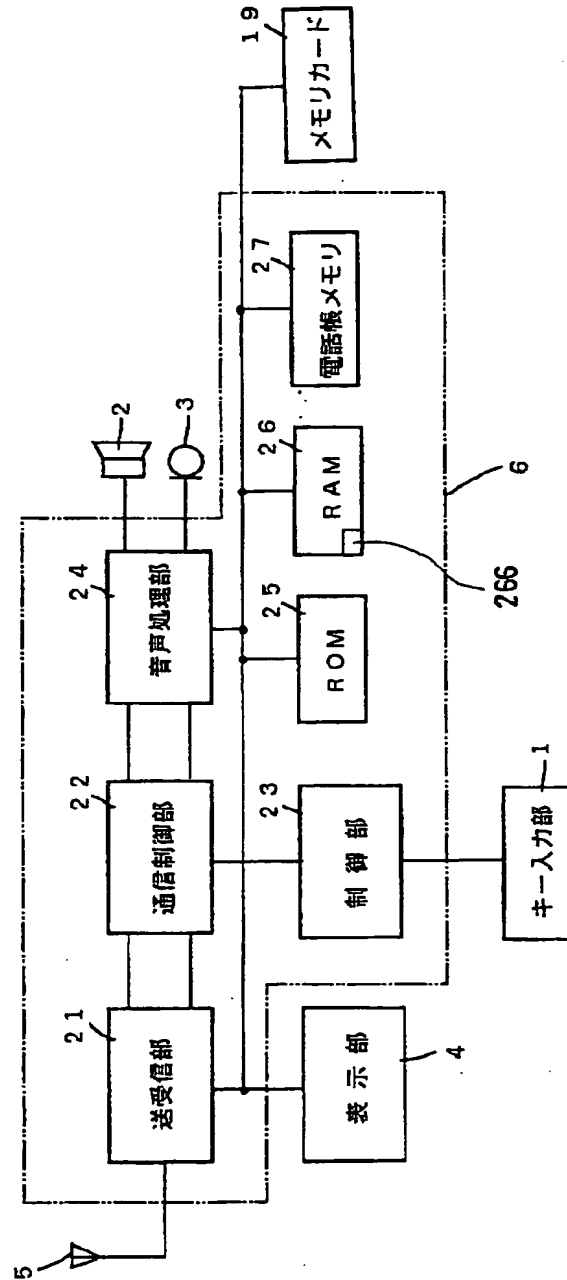
【図3】



【図5】



【図 7】



【図8】

19

(A)

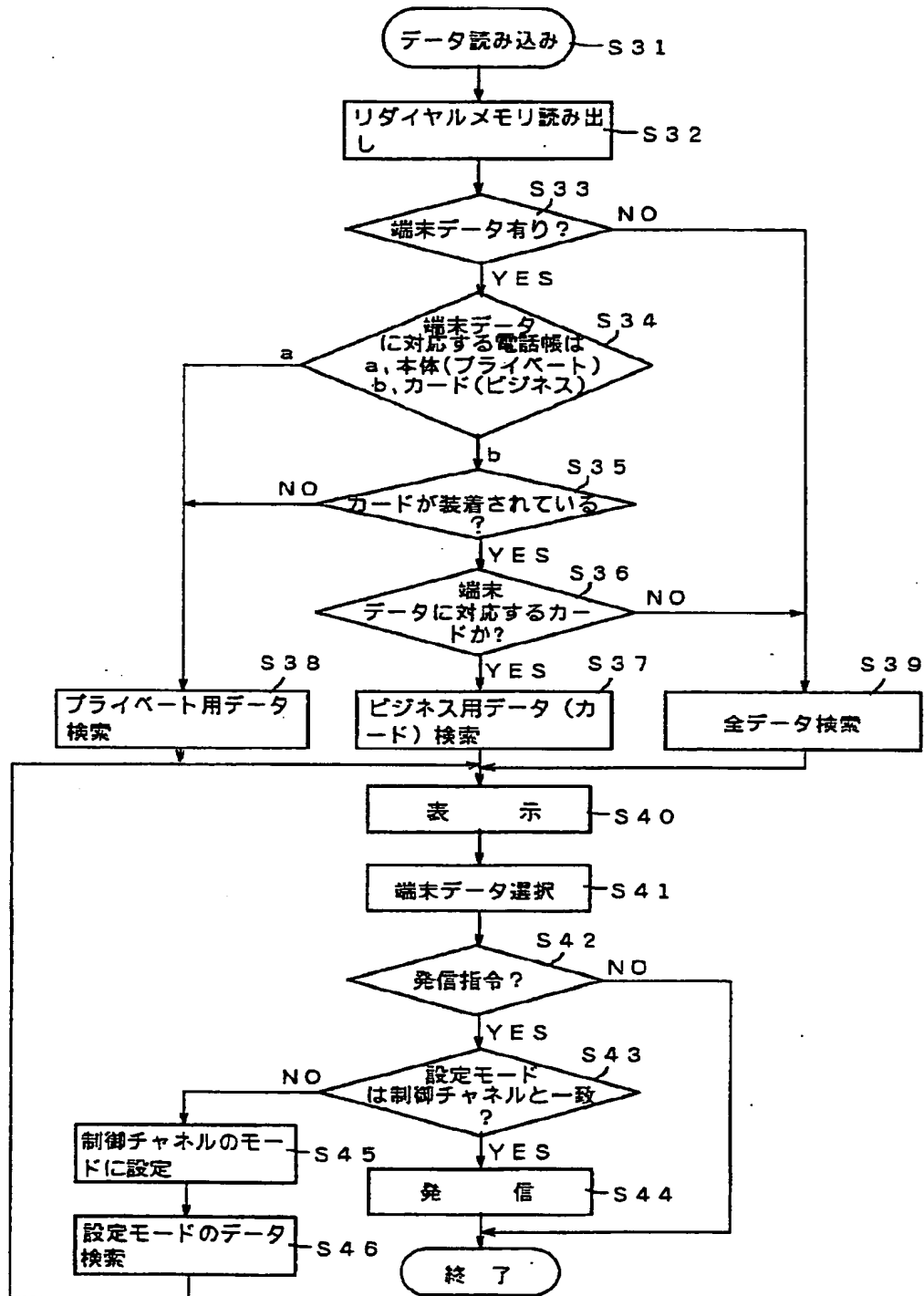
名 前	勤務先電話番号	自宅電話番号	住 所
山田 太郎	0425-79-1234	0425-79-4321	
加藤 三郎	0425-79-4567	0425-79-0987	

27

(B)

名 前	電 話 番 号	住 所
田中 五郎	0425-79-7890	
吉田 二郎	0425-79-8765	

【図9】



【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 15 年 1 月 31 日 (2003. 1. 31)

【公開番号】特開平 9-107396
 【公開日】平成 9 年 4 月 22 日 (1997. 4. 22)
 【年通号数】公開特許公報 9-1074
 【出願番号】特願平 7-302254
 【国際特許分類第 7 版】

H04M 1/274

H04Q 7/38

【F I】

H04M 1/274

H04B 7/26 109 T

【手続補正書】

【提出日】平成 14 年 10 月 22 日 (2002. 10. 22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数ある分類の中の 1 つと相手端末の端末データとを対応付けて複数記憶する記憶手段と、
複数ある分類の中の 1 つを設定する設定手段と、
 この設定手段により設定された分類に基づいて前記記憶手段の端末データを検索する検索手段と、
 この検索手段により検索された所定分類の端末データを出力する出力手段とを備えたことを特徴とする携帯通信装置。

【請求項 2】 前記携帯通信装置は、基地局を介して無線通信が可能であり、前記設定手段は、該基地局から送られてくる基地局識別符号に基づいて設定することを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 3】 前記分類は、公用と私用であり、前記基地局識別符号は、少なくとも事業所及び家庭であり、前記基地局から事業所の基地局識別符号を受信すると、前記設定手段で公用を設定し、該基地局から家庭の基地局識別符号を受信すると、該設定手段で私用を設定することを特徴とする請求項 2 記載の携帯通信装置。

【請求項 4】 前記出力手段は、端末データを前記基地局に対して発信する発信手段であることを特徴とする請求項 2 記載の携帯通信装置。

【請求項 5】 前記出力手段により出力された端末データを表示する表示手段を有することを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 6】 前記記憶手段は、所定分類の端末データを所定分類毎に記憶する複数のエリアに分割されている

ことを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 7】 前記携帯通信装置は、前回着信、又は前回発信した端末データ又は端末データに対応する分類を記憶し、前記設定手段は、この記憶された端末データ、又はこの端末データに対応する分類に従って分類を設定することを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信装置。

【請求項 8】 前記記憶手段は、エリア毎の端末データを記憶する外部記憶媒体で構成され、前記携帯通信装置は、その本体に前記外部記憶媒体を挿入するためのスロットを備えていることを特徴とする請求項 6 記載の携帯通信装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正内容】

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明は、複数ある分類の中の 1 つと相手端末の端末データとを対応付けて複数記憶する記憶手段と、複数ある分類の中の 1 つを設定する設定手段と、この設定手段により設定された分類に基づいて前記記憶手段の端末データを検索する検索手段と、この検索手段により検索された所定分類の端末データを出力する出力手段とを備えた構成となっている。また、このとき、設定手段は、基地局から送られてくる基地局識別符号に基づいて設定するようにしてもよい。さらに、このとき、記憶手段は、所定分類の端末データを所定分類毎に記憶する複数のエリアに分割して記憶するようにしてもよい。この場合において、記憶手段は、エリア毎の端末データを記憶する外部記憶媒体で構成され、装置本体にその外部記憶媒体を挿入するスロットを備えるようにしてもよい。さらにまた、前回着信、又は前回発信した端末データ又は端末データに対応する分類を記憶し、設定手段は、この記憶された端末データ、又

はこの端末データに対応する分類に従って分類を設定するようにしてもよい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】上記構成によりこの発明においては、登録した端末データの検索の際、設定している分類の端末データだけを記憶手段から読み出して表示させ、設定していない他の分類の端末データは表示させないので、複数の分類される端末データが混在して登録されている場合でも、目標とする端末データを迅速に検索して発信することができる。また、基地局との間で制御チャネルを確立したときにその基地局から送られてくる基地局識別符号に基づいて分類を設定することにより、家庭内に携帯

通信装置があるときにはプライベート用の分類の端末データだけを検索することができ、事業所内に携帯通信装置があるときにはビジネス用の分類の端末データだけを検索して発信することができる。さらに、所定分類毎に端末データを複数のエリア毎に記憶するようにしたので、複数のエリアを切り替えることにより所定分類の端末データを迅速に検索して発信することができる。この場合において、記憶手段を装置本体に挿脱可能に挿入する外部記憶手段で構成することにより、多数の端末データを登録することができ、用途に応じて外部記憶手段を交換することができる。さらにまた、前回着信又は発信した端末データの分類を記憶して、端末データの検索のときには、前回着信又は発信した端末データの分類に従ってモードを設定することにより、制御チャネルの確立を行う前でも、目標とする端末データを迅速に検索できる。

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☒ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.